

12月15日（日） 新聞掲載

（12月6日 波崎四中で出前授業）

12月6日に本校機械科の生徒が波崎四中でものづくりの出前授業を行いました。対象である中学2年生に、事前に準備してきたスライドで説明し、工業に関するクイズを出したりして、和やかな雰囲気になった後、実際にペーパーウエイトを製作してもらいました。中学生を4、5名の班に分け、本校生徒10名が各班にアドバイスをするなどして、1時間の内で完成することができました。

中学生は達成感が得られ、満足していました。講師役となった生徒の中には中学時代に出前授業を受けて本校の工業科へ進んだ生徒もいました。

波崎四中の協力で、ものづくりの楽しさを地域に発信する良い機会を得ることができました。実際、生徒は中学生に教える側でしたが、本当に勉強になったのは高校生だと思います。生徒もそれを実感しているようでした。

なお、12日には同授業をやたべ土合小でも6年生を対象に実施しました。



ものづくり楽しいよ

波崎高生が中学生指導

ものづくりの楽しさを知ってもらおうと、県立波崎高（神栖市土合本町、秋山克巳校長）の機械科の生徒10人が6日、同市土合北の市立波崎四中（片根孝典校長）を訪れ、出前授業を行った。2年生が授業を受け、高校生の指導を真剣に聞きながら、黄銅のペーパーウエイト作りを楽しんだ。

同高の機械科は技術者育成を目指しており、出前授業は卒業課題の一環。教える難しさを学ぶことや、地域貢献活動を経験する目的で毎年行っている。高校生は事前に作ってきたスライドで、図や動画を見せて作り方を説明。その後、

4、5名の班に高校生1人が付いて製作の指導に当たった。

中学生はペーパーウエイト作りの中で、ねじを切る技術に挑戦。悪戦苦闘しながら、粘り強く取り組んだ。

同中の湯浅実莉さん（14）は「分かりやすく教えてもらい、完成できた。楽しかったので、またやってみたい」と達成感をにじませた。同高3年の糸川航平さん（18）は「教えるのは難しかったが、中学生が工具の名前を覚えるなどしてくれて、やりがいを感じた」と話した。

（松浦かえで）

茨城新聞 2019年12月15日